

# 職責を超えて奮闘する職場の努力に報いない経営姿勢に対し 2025JR総連春闘で培った組織力を基礎に新たに立ち向かう中央執行委員会見解

JR東労組は2025JR総連春闘方針にもとづき、私たちの労働実感と生活実感をもとに、1993年以来32年ぶりに労働組合の賃上げ要求の平均が6%を超える状況の中、強い決意をもって2025JR総連春闘をたたかい抜いてきた。

しかし、3月6日、申12号「2025年度賃金引上げ等に関する申し入れ」及び、申13号「2025年度夏季手当に関する申し入れ」第3回団体交渉にて、「所定昇給額の1.5倍の額及び4,000円」を加える基本給改定の実施、「エルダー社員の基本賃金に8,000円」を加える賃金改定の実施、夏季手当については基準内賃金の2.8ヶ月とするなど、定期昇給(昇給係数4)の実施を除いてJR東労組の要求や趣旨から大きく乖離した回答を受けた。

さらに、昨年の回答日より大きく前倒ししてまで示してきた回答は、満額回答どころか、ベースアップの格差は昨年の1.5倍に拡大。しかも、夏季手当については昨年よりも僅か0.1ヶ月プラスに留まる回答に到底納得できず、第3回交渉で強く再考を求めてきた。しかし、受け入れられないことから、席上妥結せず回答を持ち帰り組織内で議論することとした。

また、3月6日の回答を受けた直後に、東北新幹線の列車が分離するという「重大インシデント」が発生し、運輸安全委員会から調査を受ける事態となった。まさに、「信頼」を損なう事態であることを重く受け止め、職場では職責を超えて輸送の確保とお客さま案内に全力で取り組んできた。そして、終日輸送は混乱した上に新幹線の併結運転が出来ず、ご利用されたお客さまには多大なご迷惑をお掛けすることとなった。情報もままならない状況の中、多くのお客さまから不安とお叱りの言葉を受けながら対応した。

それにもかかわらず3月11日、原因はわからないものの対策を施して運転再開する旨が、新幹線統括本部長の記者会見で突如発表された。そもそも、このような情報が私たちには説明なく周知されたことに、職場からは辛辣な声が出されている。ご案内や臨時ダイヤ対応、そして懸命に原因究明にあたっている社員の顔を思い浮かべた会見のように到底感じられなかった。

思い起こせば2023年12月22日、新幹線統括本部長から『年末年始輸送に向けて』として、「新幹線を止めない、遅らせない体制で挑みましょう」「増収・コストダウンを続け、稼ぐことにこだわっていく」といった、JR福知山線脱線事故前夜を彷彿させるような、「稼ぐ」が第一、安全は二の次とも捉えかねない掲示が掲出された。以降、新幹線は重大な事故・事象が相次ぎ、多くのトラブルを招いている。挙句の果てには、「重大インシデント」として調査を受けることとなり、これほどまでに現場社員に負担を負わせ、春闘の回答の公表を一日延ばしたにもかかわらず、回答書には現場で奮闘した社員に対する労いの言葉は一つもなく、ベースアップの格差は昨年の1.5倍！夏季手当については昨年より僅か0.1ヶ月プラスの回答に、到底納得などできるわけがない！

一方、ほとんどの社友会の掲示には「物価高騰を上回る賃上げ」と記されていたが、実質賃金は前年と比べ3年連続でマイナスとなっている。また、「初任給特別措置および役職・職責の重さを踏まえたベースアップ」「意見をしっかり検討していただいたもの」とも記されていたが、そもそも、格差ベアを期待し、格差ベアを引き出した回答は、社友会会員の皆さんの要望だったのか？さらには、JR東海の夏季手当よりも0.25ヶ月も低い回答が示されたことに何ら疑問も持たず、春闘破壊のお膳立てをしてきたかのような「おしらせ」に見えてならない。このような春闘破壊、そして東北新幹線での列車分離が発生した中で奮闘してきた仲間たちの声を会社に訴えることもなく、他労組も早々と妥結していく姿に開いた口が塞がらない。

これらのことに対して私たちは妥結することなく、回答以降、25,000件を超える組合員・未加入者の声を中央本部は集約した。主に組合員・未加入者から、「ベースアップの格差は昨年の1.5倍！夏季手当については昨年より僅か0.1ヶ月プラスの回答に納得ができない！」「新幹線分離で、なぜ社長が謝罪しないのか。結局現場に押し付けている」「現場の苦労が全く伝わらない」といった怒りの声ばかりだった。これらをバネに、申16号「現場第一の姿勢で職責を超えて奮闘する職場の努力に報い、生活とモチベーションの維持・向上の実現を求める緊急再申し入れ」を提出し、私たちは最後までたたかい抜いてきた。

たたかひの過程では、各地本で開催された春闘集會に1,300名を超える仲間が結集し、各地本の実践に学び合い、連帯のたたかひを強固につくりあげることができた。また、「定期昇給とベアの違い」「賃上げと夏季手当の同時期議論の狙い」などについて議論を深めながら、職場からのたたかひによって組織拡大を実現することができた。

最終的に「緊急再申し入れ」においても要求の前進を勝ち取ることはできなかったが、組織強化・拡大の教訓と今後の課題を明確にしたこと。そして、「新たな人事・賃金制度の改正」や「新たな格差拡大」が狙われていることに対する構えをつくり出し、安全第一の職場を再確立していく意思統一を行い、中央執行委員会は苦渋の判断で妥結することとした。

全組合員の皆さん！職場の奮闘と努力をかえりみない、安全は二の次、世間体重視の経営姿勢に、これからも断固立ち向かい突破していこう！そして、さらなる組織強化・拡大を実現し、分断を許さず、安全で安心して働きやすい職場をめざしていこう！同時に、JRバス関東本部、JRバス東北本部、ステーションサービス協議会の仲間と共に要求実現に向けて連帯してたたかおう！

過半数代表者選挙やダイヤ改正作業、そして、東北新幹線の列車分離における対応などで多忙な中、たたかひを支えてくださった全組合員・ご家族、OB、未加入者の皆さん、そしてJR総連に結集するすべての仲間の皆さんに、感謝と御礼を申し上げ、中央執行委員会としての見解とする。

2025年3月15日  
東日本旅客鉄道労働組合  
中央執行委員会